

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホーム すえひろ		
所在地	瀬棚郡今金町字今金358番地の13		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171700198&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者、家族の方と喜怒哀楽を共有し末永く安心していただきます。
- ・家族のどんな些細な不安、心配ごととも受けとめるよう傾聴する姿勢に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域でグループホームがまだ正しく理解されていない頃の開設でもあり、当初は利用者が少なく代表者、管理者、職員がパンフレットを持参して地域を奔走し、最初の利用者がホームに来た日の喜びは、今でも忘れることが出来ないとのこと。その日の想いを常に忘れず、感謝して高品質なサービス提供へと繋げています。利用者、家族、職員の信頼の輪がしっかりと保たれ、グループホームの理想や夢に向かって、日々研鑽を積んでいるホームです。また、隣接する「小規模多機能ホームすえひろ」や系列事業所とは、良好な関係が構築されていて、利用者の暮らしの巾を広げるための支援体制が整えられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初作った理念を、再び職員全員で考え更に充実したものにした。誰でもすぐ分かるように正面玄関に掲示し、職員会議では理念を復唱している。	介護に重要なことは何かを管理者、職員全員で話し合い、独自の理念を作り、ケアサービスの基本として、会議や自己評価時を機会に掘り下げることで、質向上に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外のベンチや散歩のときに気軽に声がけやあいさつを交わし笑顔のお付き合いが継続されている。すえひろ夏祭りをしたり、町内行事へ参加、慰問もいただいている。	散歩や日光浴時に、地域の方々と気軽に挨拶を交わし、地域行事やホーム行事に相互参加することで、町内の様々な方々と交流を深め、地域に根ざしたホーム作りに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流広場すえひろを開催して地域の方々との交流の場としながら、認知症サポート養成講座などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のホームの様子を具体的に報告し、メンバーから色々な意見をいただき、職員会議等で話し合いサービスの質の向上を図っている。	系列事業所と合同で行政職員、町内会関係者、利用者、家族が出席して開催しています。ホームからの現況報告、その都度の話題・情報が議題となっていますが十分ではありません。	運営推進会議の意義を理解していただき、ホーム独自のメンバー構成の下で、双方向的な会議が実施され、更に質の高いサービス提供に繋がる取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町保健福祉課や社会福祉協議会、地域包括支援センターと日頃から情報交換や課題を共有しており、ホームの様子や運営の実態を伝えながら相談や指導を常に受ける関係づくりを行っている	町の保健師や地域包括センターのケアマネジャーの訪問があり、課題や情報を共有し、ホームの現状や運営の実態を伝え、意見やアドバイスをいただきながら、連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないことを共有しており、利用者の安全を確認しながら鍵をかけないケア、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は外部・内部研修などで、身体拘束をしないケアの大切さを十分理解しています。研修に参加した職員は、報告をして職員全員で情報の共有を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止に関する研修会へ参加して、職員会議等で内容を報告し虐待防止の徹底を共有してる。ストレスを溜めない環境づくりのため職員とのコミュニケーションを心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会等に積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者と管理者が立会い、十分な説明を行うとともに利用者や家族の希望や不安などを共有するようコミュニケーションを図ることを大切にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから不満や苦情、サイン等を見逃さないよう努めている。苦情・相談ポストを設置、家族会、運営推進会議での意見交換。訴えに関しては職員会議等で改善するように取り組んでいる	どんな些細なことでも家族に報告して信頼関係を築き、来訪時に気軽に話せる雰囲気作りに配慮し、知りたい事やしてほしいこと等を吸い上げ運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを十分にとり、職員から気軽に意見や要望を聞く職場環境づくりをしている。職員会議や管理職会議での提案や意見交換を行っている。	代表者や管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に考えており、気軽に意見や要望を表出できる環境作りに配慮し、課題は迅速に話し合いをして改善に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図りながら実績や勤務状況を把握し、研修も希望を受け入れ、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得にも積極的である。職員親睦会主催のレク等で職員間のコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修に参加できる環境づくりに努め、職員の希望を受け入れ事業所外の研修に積極的に参加させている。職員においても自らの職務年数と技術に応じ、各種資格の取得に努め「働きながら学ぶ」ことに積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は研修会等で知り合った他のグループホームの職員と交流や相互の情報交換を行っている。町内の介護施設職員で行っている「としべつ道場」へ参加し勉強会や職員間の交流をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人はもとより家族との会話や訪問を通じてコミュニケーションを図り本人を受け入れることに努めている。日常生活の会話の中で話しをよく聞くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたって本人や家族の困っていること悩んでいることを受け止め、納得のいく説明とコミュニケーションを大切に家族との信頼関係を築きながら受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や状況を踏まえて、優先順位を把握するとともに、今金町や地域包括支援センター等の指導や助言を受け他のサービスの照会にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな環境のなか共に過ごす中で、本人の出来ること出来ないことを見極め、食事の準備や四季の行事、昔の歌や昔話など沢山の事を学び得る関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にコミュニケーションをとり馴染みの関係を築き、利用者の状況や健康状態を報告し、家族の方の思いと共感しながら本人の生活を支援しています。誕生会やすえひろ夏まつりへ家族が参加する機会をつくっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近隣の人の面会や、外出（自宅やご近所、かかりつけ医、病院で会う知人、敬老会に参加）もご本人の希望を大切にしています。友人や家族へ年賀を送っています。	友人や知人との継続的な交流を維持し、馴染みの商店での買い物、教会礼拝への出席、家族への手紙を送るなど、地域との繋がりや生活習慣を尊重した支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	落ち着いて話をされているときには側で見守り、時には職員が関わって唄やカルタをしたり話しをするなど、あたたかな雰囲気の中で、利用者同士がよい関係でいられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人に面会に行ったり、家族とも連絡をとりあったり、付き合いを続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用して「私」という本人に置き換えて、本人の希望や願いを把握し、職員全員で共有し「本人はどうしたいのか」検討している。	生活歴を参考にし、些細な表情やサインを見逃さないように心がけ、困難な時は、家族から情報を収集して、思いや意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で本人の古い記憶や、家族と馴染みの関係を築きながらこれまでの暮らしぶりを伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日誌、個人記録、伝達簿で申し送りを行い、職員全員が一人ひとりのちょっとした変化の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて職員間でアイディアを出し合いながら、本人や家族の「思い」を第一に介護計画を作成している。また変化の状況によっては適切に介護計画の見直しを行っている。	3ヵ月毎に利用者や家族の思いを踏まえ、職員全員と関係者の意見を反映させた介護計画を作成しています。介護記録で実行を確認し、状況変化時には新たに計画作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診結果や日常の様子、気づき、ケアプランの実施などの情報を記録し、職員間で共有しながらケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夏場は散歩に出かけることが多く、その時々状況に合わせた通院や買物、外出（馴染みの敬老会参加、ドライブなど）支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いろいろなボランティアの方々が無償にきて利用者を楽しませてくれます。消防署の協力をいただき利用者も避難訓練に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえて主治医を選定し定期的に受診し体調を把握してもらっている。本人の苦痛を軽減するために必要な他科受診は本人・家族に説明、相談、了解をした上で行う。	利用者や家族の希望する、かかりつけ医や必要に応じて専門医への受診支援を行い、適切な医療が受けられるように取り組み、診療結果は家族に報告して共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間の情報交換を密にしながら毎日の健康チェックや利用者の状態を共有している。協力医療機関の医師や看護師に利用者の状況を伝え、相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院の医師や看護師とは連携が取れており、入院時には病棟看護師に直接申し送りをし、退院の目処がたったときには病棟師長から連絡が入り、受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について率直に家族と相談している。症状悪化時には家族とともに医師と面談し方針を共有している。都度面談し医師の意見と家族の希望と「できること」を相談している。	重度化や終末期ケアに関する指針は定めていませんが、利用者や家族の意向を踏まえ、ホーム、医療関係者と随時話し合い、出来る最大限の支援に取り組んでいます。	医療連携体制を整え、指針を定めると共に、職員の更なる知識や技術習得のための取り組みも計画中です。早期に実行されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て応急処置研修会を実施している。看護職員と急変時の対応策などの情報交換をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と避難訓練を年2回実施している。地域住民も避難訓練に参加協力をいただいている。	消防署の指導の下、地域の方々や消防団の参加をいただき、年2回昼・夜を想定した避難訓練を実施しています。職員は常に通報手順や避難経路をシュミレーションしています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな言葉がけや、誇りを傷つけることの無いように配慮している。個人情報漏洩防止について説明をしている	利用者への尊敬の念や配慮を持ち、尊厳を守る対応を心がけ、書類関係もしっかり管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせた言葉や内容でコミュニケーションを図り、本人の考えや思いを受け止めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にその人を理解しながら個別ケアに取り組み、本人の表情や言葉、動作にあわせて制止することなく本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から髪形、服装、髭剃りやマニキュアなどに気をつけて支援している。美容師ボランティアもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れながら、一緒に食事の準備や後片付けをしている。時には外出に出かけたり出前も取り入れている。	好みや旬の食材を取り入れた献立を作成し、準備や後片付けを職員と一緒にに行い、食事も共にし、時には外食や出前も楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に沿って栄養バランスに配慮している。水分量はチェック表で個々を把握している。定期的な体重測定をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入れ歯の清掃やうがいなどの口腔ケアの支援をしている。就寝時には入れ歯を洗浄液に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い一人ひとりのパターンを把握し、尊厳を守りながら声がけや誘導を心がけている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライドに配慮した声かけや誘導、そして、適切な衛生用品を使用することで、トイレでの排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や水分量チェック表で個々の状況を把握し、食事や体操、歩行運動、ゲームも取り入れている。便秘薬を用いる場合は調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングで対応し、ゆっくりと入浴できる支援に配慮している。入りたくない時は無理に勧めない。	利用者の体調や意向を考慮して、週2回以上の入浴やシャワー浴を実施しています。入浴を拒む方には、タイミングや声かけに配慮し、入浴を楽しめる様に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時には暖かい牛乳を飲むことで再度入眠できる方もおります。日中は小上がりやソファで横になる（昼寝）など個々のリズムで休息をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった場合には、看護師、職員が情報共有し、飲み忘れや誤薬を防ぐための見守りや介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり作りや洗濯物たたみ、台所のお手伝いなど、個々に合った役割を支援している。カラオケやドライブ、イベント見学なども楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には外のベンチに出たり散歩が日課となっている。おやつなど買い物に出かけたり、バスハイクなど海や山に出かける機会を作っている。	気候の良い時期は買い物や散歩をし、花壇や菜園作業を楽しみ、前庭でおやつを頂き、ピクニック気分を味わっています。系列事業所の職員の協力を頂き、海や山などへドライブをする機会を多く確保しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、自分で金銭を管理できる利用者は本人が管理し、ちょっとした買物にも出かけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流に電話や手紙を書く支援をしている。家族や友人へ年賀状を出す支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールは、季節の飾りつけや花を飾ったり、利用者の写真を貼るなど、明るい雰囲気づくりを心がけている。改修工事により玄関ホールが広く明るくなった。	共有空間は室温や湿度が管理されていて、明るく、清掃も行き届き清潔が保たれています。季節毎に飾り付けを変えたり、花を飾ったりして、家庭的な温かい雰囲気を醸し出すと共に、五感を刺激する工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の小上がり、食卓でお話しをしたり歌を歌ったり、洗濯物をたたんだり、お昼寝をしたりと、それぞれが思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、自宅で使っていた好みの家具を持ち込んだり、家族の写真や好きな小物を飾ったりしている。	使い慣れた家具や家族の写真・思い出の品を持ち込み、利用者と職員で配置を工夫して、居心地良く生活ができる様に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールには手摺を設置している。居室には各自の名札をつけたり、「便所」や日めくりカレンダーなど、わかりやすい表示の工夫をしている。		